

1 目的

小学校と中学校が連携を深め、9年間の学びの連続性を追求することを通して、小・中学校の円滑な接続及び、確かな学力の育成や生徒指導等の充実等を図る。

2 研究テーマ

主体的に学ぶ児童・生徒の育成 ～確かな学力の育成や生徒指導における小中連携を通して～

3 令和5年度の主な研修会等

5月30日(火)	小・中連携推進委員会	令和5年度小中連携研修会事前打ち合わせ
6月26日(月)	小・中連携研修会	情報交換と共通実践事項について協議
1月25日(木)	中学校入学説明会	中学校の入学に関する説明会
3月22日(金)	小・中学校連絡会	情報交換

4 令和5年度 共通実践事項の取組について

6月26日に実施した小・中連携研修で、各校の現状と課題について情報交換をし、共通実践事項を話し合った。その後、各学校で共通実践事項に取り組み、その成果と課題について共有した。以下、共通実践事項に対する取組の成果と課題である。

【共通実践事項】

学 力 向 上：家庭学習の充実を図る（タブレットの活用法）と読書活動の充実を図る。
 生 徒 指 導：日頃の生活や生徒指導の場面で、自分の言葉や行動について考える場面を設定する。
 外国語教育：4線を意識して、小文字が書けるようになる。やり取り活動の充実。
 特別支援教育：支援が必要な児童・生徒のファイルの保管場所の工夫と、ファイルの活用ができるようにする。
 保 健 指 導：親子で時間を決めてノーメディア

【成果と課題】

- 学 親子読書の取組や朝読書の時間など、各学校の実情に応じて読書活動を取り入れ、本に親しませることができた。
- 生 児童総会の議題として言葉遣いについて話し合ったり、生徒指導の場面において、なぜそのような行動（言動）になったか状況や気持ちを聞くよう努めたりした。今後も意識していくことが大切である。
- 外 AEAと連携を図り、やり取り活動の充実を図ることができた。アルファベットについては、正しく書くことができるよう、定着を図っていく。
- 特 個人ファイルを活用できるような取り組みを検討していく必要がある。
- 保 小学校では、中学校のテスト期間に合わせて、メディアコントロールの実践を行った。中学校では、実態調査の結果や分析内容を保護者と共有し、PTAや生徒会等と協力して啓発活動を行うことができた。睡眠時間の確保やメディア使用時間のコントロールは課題であり、今後も小・中学校で連携を図り取り組んでいく必要がある。